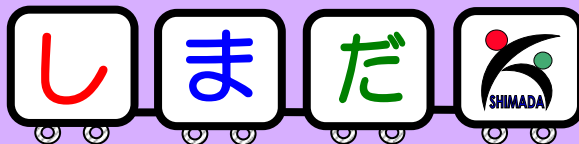


NEW

ネ

ットワーク



Network Shimada

発行者

島田療育センター
院長 木実谷 哲史

わいわい祭り 2017 ご報告

「去年よりスケールアップしたお祭りを皆さんにお見せしたい」という実行委員の強い想いが届いたのか、当日は太陽の日差しがわいわい降り注ぐとても良い天気となりました。今年は「利用者の方はもちろん、ボランティアの方も職員も共に楽しめるお祭りを」ということをコンセプトにお祭りを企画しました。

当日は、13時半の木実谷院長による開会宣言で幕を開け、各病棟にイベントが回る「出張イベント」や、日頃より当センターを支えてくださっている「島田療育センターを守る会」の代表の方々から各病棟を代表したご利用者の方々へ景品をお渡しする贈与式、その他メイングラウンドに準備されたたくさんのゲーム等、様々なイベントをお楽しみいただきました。そして、16時から是一般開放となるグラウンドオープン。今年は会場を大きく3ヶ所に分け、グラウンドをメイン会場とし、厚生棟は模擬店など飲食物をお楽しみいただけるフードエリア、そして3階食堂はくじ引きコーナーや休憩スペースとしました。

メイン会場でのイベントは、自立を目指す障がい者団体による演奏イベントや、当センター職員が中心となって企画した地域交流活動「しんぼっく」等で盛り上がりました。また、多くのご来賓の方々よりお祝いのお言葉を頂戴しました。模擬店では、やしそばやフランクフルト等を販売しましたが、昨年よりも提供数を大幅に増やしたにも関わらず完売し、くじ引き等の景品も全てなくなるほどの大盛況ぶりでした。

18時25分からの「花火イベント」では、例年の花火イベントとは違う演出を大きく2つに分けて実行しました。一つは、ナイア

ガラに着火する火を各病棟から選ばれた代表者がリレー方式で院長先生に届けるという演出です。そして二つ目として、“着火するはずなのになかなか火が付かない”というトラブルが起きたと見せかけて場内を騒然とさせ、周囲がざわめき始めたその時、実行委員になりすましていたプロダンサー数名がキレイな踊りを始めたのです。そこに本物の実行委員、幹部職員や医師等、当センターの職員がダンスに加わり、その輪を拡げて踊るというフラッシュモブ(事前に申し合わせた人々が公共の場に集まり、前触れなく突如ダンスや歌を歌って周囲を驚かせたり楽しませたりするサプライズ。その後、何事もなかったかのように解散する。)を行い、ダンス終了と同時に最後は綺麗なナイアガラをお見せするというものでした。この演出は、職員も一部の者しか知らなかったこともあり、ナイアガラ終了後のメイン会場では驚きと感動の歓声が飛び交い、「花火も踊りもとても楽しかった」というコメントをたくさんいただきました。

今年も各イベント団体や取引先、関係機関からのたくさんの応援をいただき、無事お祭りを終えることができました。参加者は入所・通所のご家族が228名、一般来場者は525名と昨年の倍となる方々にご来場いただきました。改めて、わいわい祭りはご参加くださった皆様と共に作り上げるものであることを強く感じました。当日感じた感動を皆様と共有できたことは今後の宝物になると思います。ご協力くださった全ての皆様に感謝し、お礼を申し上げます。ありがとうございました。

(社会福祉士 湯本 和秀)



新理事長 ごあいさつ



社会福祉法人日本心身障害児協会
理事長 河 幹夫

このたび、6月21日の法人理事会に於いて、理事長に選任されました。前任の山川常雄理事と同様、ご支援いただきますよう、よろしくお願いいたします。と言いましても、私は山川理事とは異なり、この法人はもとより、社会福祉

の実践の場に身を置いた経験を有しておりません。厚生(労働)省に34年、大学教員10年の経験ですので、近くで仕事してきた自負はありますが、必ずしも福祉実践の中で生きてきたわけではありません。日々の仕事の中で、皆様方から学んでいきたいと考えていますので、よろしくお願いいたします。

私の好きな言葉が二つあります。ひとつは「矜持(きょう

じ)」、もうひとつは「召命(しょうめい)」です。「矜持」は、辞書にある「誇り」というよりも、「責任」に近い言葉だと思っています。「召命」はキリスト教の世界では「神様から命じられたこと」という言葉ですので、丁寧にそれに従いたいと考えています。

この10年、神奈川県立保健福祉大学で4学科、一学年250人の学生に保健・医療・福祉論の講義をしてきました。それとともに社会福祉学科の学生、各学年5~6人のゼミ生を受け持ち、卒論だけでなく、全国の福祉の学びをしてきました。先人たちの歩みと今現在の活動など、多くのことを学生と共に学び続けてきました。

半世紀前、小林提樹先生が重症心身障害児施設、島田療育園を構想されたときの大胆さと崇高さを思い、困難な中を歩んでこられた利用者の方々、そのご家族、そして職員の尽力に思いを馳せます。そして皆様がそれぞれの幸せに近付いていって欲しいと思うのです。願うのです。

ともに生きていきたいと思っています。感謝とともに。



地域機関とのつながり

自立ステーション つばさ

~派遣事業・わいわい祭りへの参加協力を通じて~

(自立ステーションつばさ 代表 藤吉 さおり氏)

自立ステーションつばさは、どんなに重いしょうがいを持っていても地域でその人らしく生活したいと願うしょうがいを、地域で暮らしている自立しょうがい当事者が中心になって支援している団体です。

今年 はじめて島田療育センターのわいわい祭りに参加し、踊り(差別解消レポリューション)と太鼓・バンド演奏を披露させていただきました。特に踊りは、去年 施行された差別解消法を多くの方々に知っていただくために、色々な機会を利用して積極的に行っていますが、つばさでは他にもしょうがい児の放課後活動や講演会、地域の行事への参加

などさまざまな活動を行って、しょうがいのある人もない人も、共に生きる社会



左) 講義の様子

めざすを目指しています。

つばさのしょうがい者や共に生活している介護者は、こうした活動を 行うために、栄養、衛生、健康面などに配慮した日々の生活が大切であると 考えています。そこで、5年ほど前からしょうがい者へのサポートに関して豊富な知識や経験をお持ちの島田療育センターの専門職の方々に来ていただいて、しょうがい者、健常者スタッフが研修を企画してきました。

今年 は6月に管理栄養士の小林さんにおいでいただき、栄養バランスの良い食事や調理時や調理器具の衛生管理に

ついて、ユーモアあふれるわかりやすい講義をしていただきました。食器洗い用のスポンジの汚れはトイレブラシに匹敵するとか、湿気は菌の温床であるとか、初耳のびっくりすることがたくさんでした。10月には去年に引き続き口腔ケアの研修を行

う予定です。こうした研修で得た知識や実践を生かして、健康的で楽しい自立生活を続けていきたいと思っています。

右) 口腔ケアの介助の練習の様子



第44回 マジカルトイボックス

～イベントに参加して～



7月15日(土)に国立オリンピック記念青少年総合センターにてマジカルトイボックス第44回イベントが開催され、当センターのピコピコルームが展示に参加しました。このイベントはAAC(拡大代替コミュニケーション)の普及を目的としたイベントで、午前中がセミナー、午後が展示という二部構成です。今回のセミナーのテーマである「スイッチ1つで広がる世界」「パソコンまでの距離 Last 1 feetをうめるちよつとした工夫」に合わせて、スイ

チ1つで操作できるおもちゃやゲーム、視線だけでパソコンを操作できるセンサーなどテーマに関連するものの展示を行いました。

スイッチで動かせるおもちゃとしては、当センターの病棟活動でもよく利用されている大きなラジコンや、人気ゲーム「スーパーマリオメーカー」を使って、スイッチを操作してジャンプするだけで楽しめるコースを展示しました。いずれもコントローラーを少し改造するだけで実現でき、スイッチ1つで楽しみを上げられることをお伝えできたと思います。また、Tobii EyeX Controllerという視線センサーとパソコン、無償で公開されているソフトを組み合わせ、視線だけでのゲーム操作を体験していただきました。

今回私たちは機器を利用する立場として、使い方の工夫や活動の紹介を行いました。他のブースでは機器やソフトウェアの開発・販売を行う会社の展示などもあり、AACに関する最新情報を得ることもできるイベントです。年に2回開催していますので、ご興味をお持ちの方は一度参加してみたいはいかがでしょうか。

(リハビリ工学士 神田 水太)



左)おなじみのマリオゲーム
スイッチで操作ができる
ように改造したもの



右)視線入力で操作が
できるシューティング
ゲーム
(目で見定めた所に射撃
できるようになっている)



Q

子どもの姿勢が悪いと感じています。食事の時も姿勢が崩れやすく、日中もごろごろ過ごしていることが多いです。姿勢を良くするには、日常的にどのような関わりをすればよいのでしょうか。



A

良い姿勢とは、簡単に説明すると腹筋と背筋がバランス良く働いていることが大切な要素の一つとなります。姿勢が悪いお子さんは、腹筋が弱い場合がとて多いです。時々、背中を反らせて姿勢を保っているお子さんがいますが、これも良い姿勢とは言えません。背筋を必要以上使うことにより、弱い腹筋をカバーしている姿勢だからです。では、良い姿勢の基準とはどのようなものなのでしょうか。

一つ例をあげてみますと、横から見て耳・肩・お尻がだいたい直線につながる状態(体勢)です。実際に行なってみると、長い時間この状態を維持することは、大人でも結構難しいものです。では実際に姿勢を良くするために、どのような取り組みをしたら良いのかお話しします。



食事場面では、机とイスの高さ

等の環境を工夫することでも姿勢を育てることができます。机は、手を乗せた時にひじの角度が90度程度、イスは足の裏が床にしっかり着いている状態が良いです。足が浮いているようであれば、雑誌を重ねる等して足台を作り、高さを調整してください。

遊びの中では、年齢の小さいお子さんは大人と一緒にギッタンバッコンする遊び、抱っこでしがみつくと、高さが楽しめるなら飛行機遊びも良いですね。年長児以上であれば、手押し車、お相撲、押し相撲等の遊びは、腹筋をつけ、さらにバランス感覚も養える関わりです。コツコツと積み重ねていくことが大切です。楽しみながら行ってください。

(作業療法士 岩崎 加代子)



あしらせ

※ 島田療育センター(多摩)の企画・イベントです。詳しくはホームページをご覧ください。

本をご寄贈いただきました

H29年7月末に、「グループまんてん」様より療育図書33冊をご寄贈いただきました。



いただいた書籍は、「情報資料室くつろぎ」にてご覧いただけます。

ご寄贈ありがとうございました。

「第17回 公開シンポジウム」

日時：平成30年 2月18日(日) 13時～16時半頃(予定)

会場：島田療育センター(多摩) 厚生棟

定員：100名

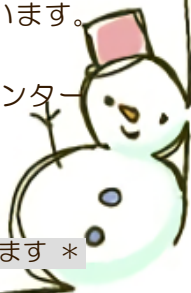
内容：重心児・者施設の今後のあり方と、地域社会に関わられたセンターを目指す上で当センターが担う役割について考える機会にしたいと思います。

基調講演：児玉 和夫 氏

(大阪府・堺市立重症心身障害者(児)支援センター「ベルデさかい」センター長)

話題提供：河 幹夫 (当センター 理事長) 他1名

* 詳細が決まりましたら、HP等でお知らせします *



第13回島田セミナー「きょうだい支援を考える」

日 時：平成29年 11月11日(土) 14:00～17:00

会 場：島田療育センター(多摩)厚生棟

定 員：150名(要事前申込)

参加費：医師・歯科医師1,000円、その他500円、学生無料

ST科講習会

第2回『吃音のはなし』

* 参加費はいずれも無料です *

①保護者向けの講義と交流会(託児はありません)

②お子さん同士の交流会

日程：H29年 12月26日(火) 9:40～11:40

対象：①保護者、(関係者：講義のみの参加)(定員：10名)

②吃音のある年長～小学生のお子さん(定員：6名程度)

* 保護者のみ、講義のみのご参加もお受けしています。

①につきましては、託児のご用意がありません。ご了承ください。

第3回『ことばが出る前に大切なこと・関わり方』の講義と相談会

開催時期：H30年2月～3月 予定

対象：まだことばが出ていない段階のお子さんやことばの育ちに心配があるお子さんの保護者(定員：20名)

地域療育等支援事業のご案内

①外来療育等支援事業(療育相談)

運動面やことばの発達、集団生活にうまくなじめないなどのご相談に応じます。

②施設支援一般指導事業

発達のご心配や障害のある方を受け入れておられる地域施設、機関職員の方を対象にご相談に応じます。

③訪問療育等支援事業(訪問相談)

地域施設や家庭へ赴いて、健康診査や介護指導などを行います。

費用は 無料です

窓口は「支援部」 Tel 042-374-2101(直通)

島田療育センターイベント情報 メルマガ会員 募集中!



①空メールを送信

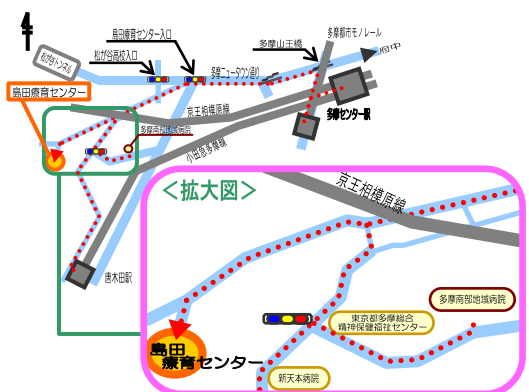
QRコードを読み取り、空メールを送信してください。

②確認メールに返信

リクエスト確認メールが届きますので、そのまま返信してください。(Googleグループの機能を利用しているため、Googleからのメールが届きます。)

③登録完了!

参加完了のメールが届き、登録完了となります。



〈徒歩〉
多摩センター駅下車
→約20分

〈バス〉
多摩センター駅
バスターミナル12番
乗り場
「南部地域病院」行き
→約7分
終点「南部地域病院」
下車→徒歩5分

編集後記

紅葉の季節になりましたね。艶やかな紅葉の様を「燃ゆる」と例えることもあります。日本語の表現の豊かさは素敵だなあ、とつくづく思います。他にも俳句で「秋の色」というと、単に秋を象徴する紅葉や旬の物のそれぞれの色ばかりでなく、衰えていく気配や寂寥とした侘しさを抽象的に表現する言葉として使われます。四季折々の風情を言葉に織り込む日本語、日本文化は本当に奥深く面白いです。秋真っ盛り、四季の移り変わりを楽しみたいですね。(市川)

編集：社会福祉法人 日本心身障害児協会
島田療育センター 支援部
住所：〒206-0036 東京都多摩市中沢1-31-1
電話：042-374-2071(代表)
E-mail：Info-room@shimada-ryoiku.or.jp
URL：http://www.shimada-ryoiku.or.jp